

# 変わりゆく私たち ～新成人の歩み～

京都外国語大学 外国語学部  
Hata Tomoyuki  
畑 智之さん  
×  
龍谷大学 法学部  
Tsuji Nanako  
辻 奈那子さん

平成30年度守口市新成人、男性748人、女性714人。  
平成31年「守口市成人式」の新成人代表は、畑智之さんと辻奈那子さん。懐かしの母校八雲中学校で再会し、当時を振り返りながら自分たちの今について語り合いました。

## 母校での再会

敬語になってしまおうと中学校卒業ぶりに会う新成人の畑さんと辻さん。少し緊張きみで照れくさそうにしてたのもつかの間、当時、生徒会で一緒だった2人は、すぐにその時に戻ったかのように会話が弾みだしました。  
辻さんの3年生の時の担任だった高田須也子先生。畑さんにとっては数学の先生。

「熱心に接してくれて、優しくかった。大変な学年だったと思うけど、いつも私たちに向き合ってくれました」と2人は先生に話します。

## 当時の2人

「2人とも生徒会活動を進んでやり、スポーツや勉強など何事にも積極的に取り組む生徒でした」と高田先生が話す。2人の顔がほころびます。

「畑くんは、さわやかな青年。変わってないね」と言われて畑さんは照れ笑い。  
畑さんは、当時サッカーのクラブ

さんの誰かを陰で支えたい気持ちは今も変わりません。

## 今の自分があるのは

成功の反対は失敗ではなく何もしないこと、感謝の気持ちを常に持つっておけ畑さんの高校の恩師からの言葉。この言葉をきっかけに両親にも感謝の気持ちを持てたり、いら立つ気持ちを抑えて平常心を保つことを学んだといえます。

今いる環境への感謝と、この先も持ち続けたい自分自身の考えにつなげます。

また、寡黙だった父と話す機会が増えたことで父の家族への思いや愛情を知った。多くは語らないけれど、そういう風に考えてくれていたんだと感動しました。そんな父みたくになりたいと語ってくれました。

辻さんは、好きなことをしたいならやることをしなさいという母からの

教えが大きかったといいます。無遅刻無欠席の真面目な辻さん。見た目と身のギャップによく驚かれると話してくれました。

また、自分の意志を押し通すだけでなく人の意見を取り入れることの大切さを知りました。

知り合いのいない学校に進学したことが自分を変えてくれたコミュニケーションを取って色んな人と接する中で、人の意見を聞き入れた上で自分の意見に加えてみる、環境に順応できる人になることの大切さを感じています。

「中学生は、人の意見を受入れることは難しい年頃。何年かのちに気付いてくれたらうれしいですね。こんなにも成長した2人。立派になったね。とてもうれしい」と高田先生。

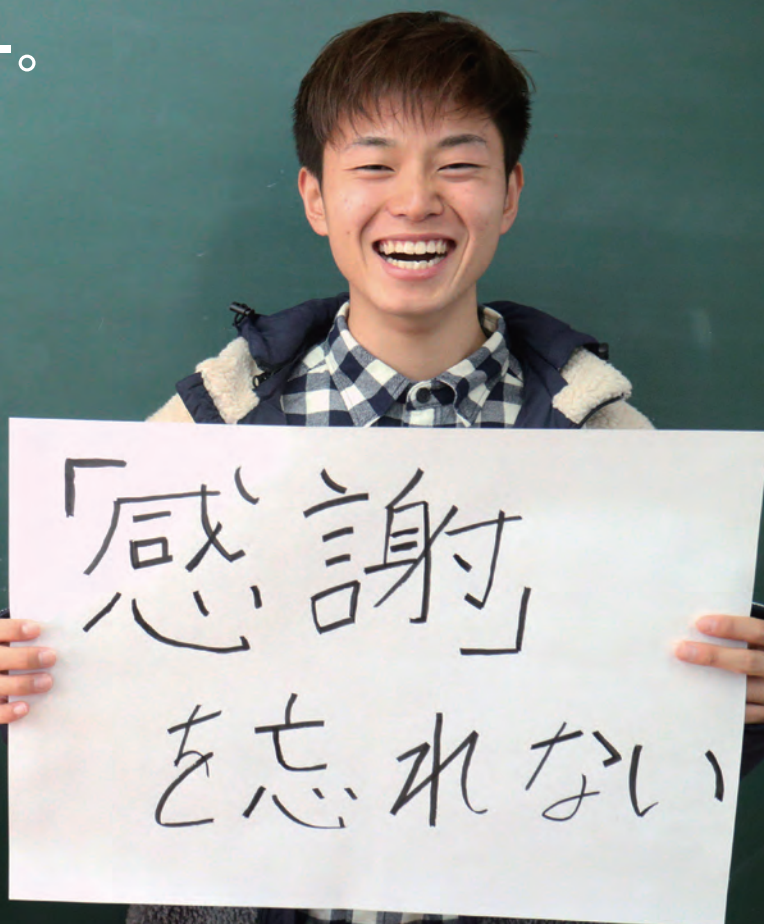
今となってはあの頃の自分が懐かしくもあり少し恥ずかしくもある。2人は成人への1歩を歩んでいます。

平成31年  
守口市成人式  
1月14日(月・祝)

受付開始 9:30  
式典 10:30~11:00  
場 市民体育館大体育室  
対 平成10年4月2日~平成11年4月1日の間に生まれた人  
持 入場整理券  
注 10:25を過ぎてからの入場は不可。入場は原則新成人のみ  
問 コミュニティ推進課  
TEL 06-6992-1520



## 夢に向かって突き進め



## 夢の変化

志は変わらないが、やりたいことが変わった畑さんは、高校生の時もサッカーに没頭しましたが、大学生になってサッカーだけでなく、色んなことを見たり経験してみたいと思いつつ、スペインとセブ島に1カ月ずつ留学。日本の平和な環境では気付くことができなかったそれぞれの地域の状況など

「辻さんは、自分の意志をしっかり持っていて意見をはっきり言える生徒でしたね」  
「良いように言い過ぎです」と謙遜する辻さん。辻さんは、小学生の頃から医者になりたいと勉強を頑張っていました。

辻さんは、小さい時からの医者になりたいという夢は高校の数IIIで挫折。大学進学も理系を目指していた辻さんにとっては、他にやりたいことが考えられなかったといいます。そんな中、姉の影響もあり、思い切って進路を變更、現在は法学部に進み、法律を使って論理的に人を助けることに魅力を感じ、自分が持っている知識で人を助けたいと法律関係の仕事に関わりたいと勉強に取り組んでいます。中学生の頃、生徒会に入っていた辻



①「同窓会しよね〜」と高田先生  
②校舎から運動場を横切りランチルームに続く「荻野回廊」。唯一上履きで渡れるという。  
③「私の席ココやった」「僕はココやった」と当時の席に着席。  
④思い出の生徒会室。懐かしさが込み上がり2人のテンションは最高潮に。